



自衛官から現場監督に転職した原口和樹さん。監督という響きがカッコよかった、と語る。実際に現場監督の職に就き、安全や品質管理、書類作成、近隣住民の対応など、現場の司令塔として働く。キャリアアップのために入った(株)山崎建設では、仕事の向き合い方も変わり、人材育成も任されるようになった。そんな原口さんに今後の目標を伺った。

●この職業を選んだきっかけ

自衛官から、建設業界に転職しました。就職活動で悩んでいたとき、「現場監督」という文字が目に入り、この世界に飛び込みました。仕事内容の知識はありませんでしたが、監督という響きが司令塔のようでカッコよかった、それがきっかけです。

現場では右も左もわからず、諸先輩には何度も質問したのを覚えています。ともかく質問は後回しにせず、その場でどんどん聞いて回りました。そのおかげで知識も経験も増えましたが、それだけに任される仕事も大きくなりました。関わり合う人も増え、成長する機会を与えてもらったと思います。

●職場の魅力や責務

土木建設工事は「現地一品受注生産」です。地域や季節など異なる状況の中で、現場を管理する責任感や達成感は、他で経験することがない魅力です。何より、担当した道や川が、地域の発展に貢献しているのを目の当たりにすると、仕事へのモチベーションも高まります。

●仕事のこだわり、ポリシー

担当する現場の大小に関わらず、風通しのいい環境作りを意識しています。現場には多くの人が、それぞれの業務をこなしています。だからこそコミュニケーションが重要です。どんな細かな問題も現場で話し合うと、答えが導き出されます。

私も仕事をこなすことで成長してきました。ベテランの職人には、その知識を若手に伝えてほしいし、若手は成長の糧にしてほしいと思います。

●仕事上で印象的なエピソード

昨年施工した道路改良工事のことを一番思い出します。複雑な工程の中で工事を行う難しさや、地域住民への配慮など、改めて学んだ現場でした。

担い手シリーズ 14

転職後に手に入れた 今までにない 責任感と達成感

原口 和樹 入社5年目(工事部 土木課)
株式会社 山崎建設



原口和樹 (はらくちかずき)
佐賀県出身。佐賀県立塩田工業高等学校。自衛官から建設会社勤務後、平成27年4月(株)山崎建設入社。
会社情報
843-0013 武雄市橋町大字大日 8292
TEL:0954-23-3629// FAX:0954-22-3441

https://sakenkyo.or.jp/shokai/kishima/ks_yamasaki.htm

私たちの仕事は、現場以外で関わる人も多いのが特徴です。特に安全管理はつねに気を付けている部分です。この現場は、交通量が多く現道を迂回させて事故防止に努めました。

●今後の目標
地元の要望や意見に対応しながら工事を進めたにもかかわらず、騒音問題が出ました。近隣住民に配慮したつもりでしたが、もう一歩進める必要があったと振り返った現場です。また、同時に完成後の達成感や喜びを感じました。地域の方から道路の段差がなくなると通りがやすくなったと、感謝の言葉を聞いたことが嬉しかったです。

●今後の目標
現場監督一人ひとりの技術力向上が必要な時代になりました。ICTの技術や新たな工法に対応できるように、現場で経験を積んで成長する必要があります。技術力が高まると、成績評定で高得点にもつながります。無事に納品するのは当たりまえですが、今まで以上に、安全や品質管理を意識するように心がけたいと思います。

建設業界の担い手不足は深刻な問題です。その中でも、若い社員が入社してくれました。今後は自分のキャリアを高めるのも大事ですが、後輩の育成にも携わっていかねばなりません。現場で学んだことや、先輩に教わったことなど、しっかりと伝えていきたいと思っています。